



松山のきれいな 地下水がはぐくんだ 【長尾せり】

このコーナーでは、誰かにすすめたく
なる伝統工芸や物産など、大崎市自慢の
逸品を毎月一品ずつ紹介していきます。
1回目は、松山地域の特産品で歯ごた
えと香りが持ち味の「長尾せり」です。



明 治期から生産が始まった
松山長尾地区のせり栽培。
現在は長尾地区十二戸の栽培農
家で組合をつくり、地下水をく
み上げるポンプの共同管理など
を行いながら、相互扶助と品質
向上に切磋琢磨しています。
収穫の最盛期は、自然栽培も
ので四月初旬から中旬、ハウス
栽培もので四月中旬からゴール
デンウィークにかけて。取材で
おじゃました長尾せり栽培組合
の高橋一郎組合長のお宅では、
家族総出で出荷準備の真っ最中
でした。この時期は注文が引つ
切り無しで、手を休める暇もな
いほどだそうです。



▲手間ひまかけて皆さんの食卓へ届きます

酒どころ松山の清らかな地下
水にはぐくまれ、みずみずし
く、しゃきしゃきとした歯ごた
えと、さわやかな香りを放つ長
尾せり。まさに大崎市自慢の逸
品です。酒のさかなに、今晚の
食卓にいかがですか。

高橋さんにおいしいせりを作
る秘けつを尋ねてみると、水の
管理と土作りが最も大切だと話
してくれました。

長尾せりは、香り高く、くせ
が少なくてやわらかいのが特
徴。おひたし、和え物、味噌汁
の具、卵とじ、きんぴら、天ぷ
ら、すき焼きや鍋ものの具な
ど、料理の幅を広げてくれま
す。



▲取材にご協力いただいた高橋さんご一家

彫 刻に向く高級な素材としてケヤキ
などがありますが、どんな木にも一
つ二つ違う硬さや木目といった特性、醸し
出す魅力があります。私にとって木の出
会いは一期一会、出会った木の特性を生か
し、個性を最大限引き出してあげたい。樹
種で差別したくないし、それまで命あつた
木なのだから、一片も無駄にしたいくない。
灰になっても畑で使えますよ」と話すのは、
彫刻家の千葉照男さん。

木目やヒビ、腐れなどもその木の特性と
捉え、現在は「釜神」に発想を得て、豊か
な表情を持つ「火面」を制作しています。
「大崎地方は、古川を中心に国内で最も釜
神が集中している地域。学術的にも、世界
に誇れるこの貴重な文化が散逸してしまっ
前に、しっかりと管理できる施設がほしい
ですね」と話してくれました。

現在も講師を務めるリサイクルデザイン
工房の木彫り塾の修了生たちと「伊達な木
彫り塾」を二〇〇五年に立ち上げました。
千葉さんの以前のお住まいで、現在はアト
リ工兼工房として利用する岩出山の旧中里
分校を制作拠点に、素材となる廃材を百パ
ーセント生かし切ることをモットーにして
活動しています。これまで塾生とともに二
回「火面展」を開催し、三回目となる火面
展が、五月二十九日まで石巻市の雄勝、硯
伝統産業会館で開催されています。

三十二人の塾生の作品九十点とこ
もご自身の作品も五十点展
示しているそうです。千葉さん
の魅力あふれる作品は、ぜひ、
会いに行ってみてください。

木との出会いも 一期一会

彫刻家 千葉 照男 さん

(岩出山・中里)



Profile(略歴)
1949年 古川市に生まれる
1973年 多摩美術大学彫刻科卒業
1976年 同大学大学院卒業
1980年 決まりきったコースに乗るの
ではなく、自然の中で人間らし
く暮らし、その中で生まれる彫
刻を追求するため、山の暮らし
を求め各地を点在。炭焼きや植
林、萱葺きなどの「山仕事」を通
じて、木の特性や自然との対峙
の仕方を学ぶ。
1989年 岩出山町中里地区へ移住
1998年 古川デザインリサイクル工房
木彫り教室講師
2005年 伊達な木彫り塾 講師

